



<http://rakusho.or.jp/>

楽笑

検索



サロン運営マニュアル・通所サービスB型 各種フォーマットがダウンロード出来ます。

<http://sankakuyane.com/>

さんかく屋根サロン

検索



発行：特定非営利活動法人 楽笑

愛知県蒲郡市三谷町魚町通12番地1

TEL 0533-69-1169

URL <http://www.rakusho.or.jp/>

平成28年度 公益財団法人日本財団助成事業
市民協働による共生型交流拠点の機能構築及び担い手づくり事業

事業報告書

事業実施団体 特定非営利活動法人 楽笑



Supported by THE NIPPON FOUNDATION



平成28年度 公益財団法人日本財団助成事業

市民協働による共生型交流拠点の機能構築及び担い手づくり事業 事業報告書

事業実施団体 特定非営利活動法人 楽笑

目次

□事業実施団体の概要	02
□今事業の目的及び事業実施内容	03
□ワーキンググループについて	04
□分野別プロジェクトチームについて	05
□共生型交流拠点の構築について	07
□地域の担い手づくりシンポジウムについて	11
□蒲郡市における通所B型の立ち上げ運営の手引き	13
□事業のまとめ及び検証	19
□事業実施団体所見	22



事業実施団体名	特定非営利活動法人 楽笑
団体住所	愛知県蒲郡市三谷町魚町通12番地1
代表者名	理事長 小田 泰久
団体設立年月日	平成19年2月5日
団体役員	4名

➡ 活動内容

- ・障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス事業
- ・就労継続支援B型事業
- ・生活介護事業
- ・地域生活支援事業(日中一時支援事業)
- ・相談支援事業
- ・児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
- ・放課後等デイサービス事業
- ・市民協働まちづくり事業
- ・地域活性化イベント事業



➡ 過去の活動実績

» 平成27年度

- ・市民参加型イベント「第7回ギョギョウランド～やっぱり三谷が好き～」開催
- ・土蔵を改修し障害者アートの展示室「となりのかぐら」開設

» 平成26年度

- ・のこぎり屋根工場を改修し放課後等デイサービス事業を開始
- ・市民参加型イベント「第6回ギョギョウランド～やっぱり三谷が好き～」開催
- ・海のまちバリアフリー映画祭inがまごおり2開催

» 平成25年度

- ・蒲郡市協働のまちづくりモデル事業委託
- ・市民参加型イベント「ギョギョウランド～I♡MIYA～」開催
- ・海のまちバリアフリー映画祭inがまごおり開催



事業実施の目的と目標

共働き世帯の増加や高齢者の増加により子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となる中、高齢者福祉・障害者福祉・子育て支援・生活困窮等多様な課題が浮き彫りになってきました。行政サービスだけでは細かな支援が届かず、家族内、地域内の支援力のあり方、そして地縁組織や地域コミュニティの必要性を見直す動きになっています。その地域力を見直し行動に移す仕組みを確立することを目的に、住民相互で関わりが持てる居場所を住民の意見を取り入れながら、関係性と拠点のあり方を作り上げる事を目的とします。

5つの目標

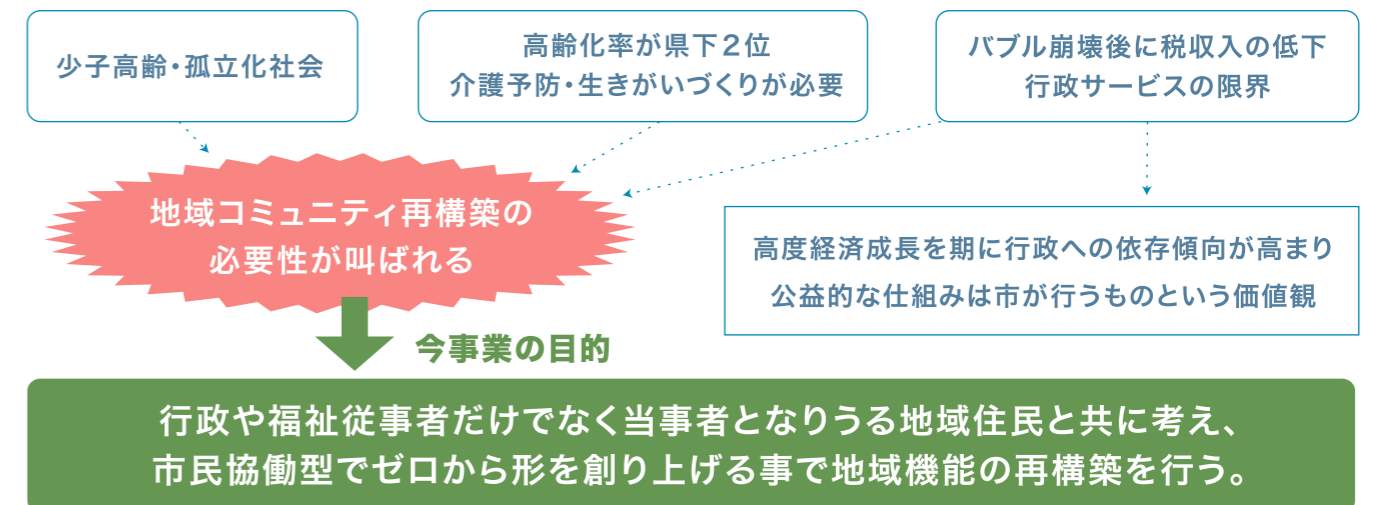
- 目標 1 高齢者の「居場所」「生きがい」「就労」の場を提供する事で、明確に外出するきっかけになり、人との交流を通じて日々の充足が図られる生きがいづくりにつながり、疾病予防、介護予防、認知症予防そして孤立の防止になり、総合的なQOLの向上が期待できます。
- 目標 2 事業運営者(ワーキンググループ)を幅広く参画させることにより、地域の多くの人脈から生まれる信頼関係の構築と今事業の重要性の気づきにつなげ、高齢・障がい・子ども等福祉分野という特別な存在から、自分ごとを感じるまちづくり分野への関わりを通じて意識の変革に繋がります。
- 目標 3 国が掲げる行政主導ではなく、住民主導の共生型交流拠点の構築プロセスをまとめる事により、他市、他県で同じような境遇の市町村のモデルとなり、新たな時代に対応した福祉の提供ビジョンのモデルとして位置付け、蒲郡市をはじめ、東三河エリアの福祉圏域での先駆的実践を目指します。
- 目標 4 地域の直近の課題を住民相互で考え、創りあげて行く工程を体感していただく事で、自助、共助と言った地域の繋がり、支え合いの再構築の一役を担う事が出来、役割を明確にしたひとづくりを行います。
- 目標 5 「福祉分野」「子育て青少年分野」「就労分野」「地域づくり分野」の得意分野で高齢の方をはじめ、子育て世代の主婦等に参画していただき、事業運営の一部を担っていただく事で、地域課題に対応できる人材育成を行います。

事業実施内容



市民参加型ワーキンググループの開催

事業を展開する為に地域の合意を取る必要があります。サロン事業を行う地域の区長である総代を中心に対象者の把握をする為に地区の老人クラブ、担い手を集める為にまちづくり・ボランティアNPO、介護保険との連動と地域の実情を把握する為に地域包括支援センターに所属する方を選定しました。蒲郡市協働のまちづくりモデル事業として居場所づくりのあり方について関わる事から、行政側として蒲郡市役所の方にオブザーブ頂きました。



ワーキンググループ開催日時・開催内容

- 第1回 2016年4月15日 13:30~15:30 運営部会
- 第2回 2016年6月6日 13:30~15:30 全体ワーキンググループ
- 第3回 2016年9月9日 13:30~15:30 運営部会
- 第4回 2016年11月8日 13:30~15:30 全体ワーキンググループ
- 第5回 2017年3月14日 13:30~15:30 全体ワーキンググループ

ワーキンググループ参加者

委員	松下秀夫	三谷町西区 総代
	波多野努	三谷老人クラブ高砂会 会長
	藤城直司	社会福祉法人蒲郡市社会福祉協議会 事務局長
	山田泰伸	蒲郡市東部包括支援センター 主任介護支援専門員
	竹内啓明	特別養護老人ホーム 穂の国荘
オブザーブ	藤田知子	三谷町民
	小田泰久	NPO法人楽笑 理事長
	伊藤勝美	蒲郡市議会議員
	三浦正博	蒲郡市市民福祉部長寿課 課長
	星野琢万	蒲郡市市民福祉部長寿課地域包括ケア推進室 主査
事務局	尾崎浩生	蒲郡市企画部協働まちづくり課 係長
	小田由美	NPO法人楽笑 事業実施担当者
	中谷歌奈子	NPO法人楽笑 事業実施担当者
	丸山陽子	NPO法人楽笑 事業実施担当者



分野別プロジェクトチームによる事業の実施

昨年度からの改善提案であがった、住民参画の場の拡充、共生型拠点の仕組みづくり、そして地域全体への啓発を実施するためには、他分野の方との協働が欠かせません。そこで今年度は、それぞれの課題を解決するために、分野別に専門家を交え4つのプロジェクトチーム、「福祉分野」「子育て青少年分野」「就労分野」「地域づくり分野」を立ち上げました。

福祉分野

日時	平成28年11月29日、12月5日、12月21日、12月26日、平成29年1月11日
参加者	蒲郡市東部地域包括支援センター山田泰伸氏、蒲郡市中央地域包括支援センター岡田隆二氏 蒲郡市みらいあ地域包括支援センター近藤由里氏、蒲郡市西部包括支援センター星野浩寿氏 蒲郡市市民福祉部長寿課神取浩子氏、蒲郡市市民福祉部長寿課中村美奈栄氏 蒲郡市市民福祉部長寿課星野琢万氏、株式会社アイエリア代表取締役鈴木将浩氏
内容	共生型サロンと総合支援事業通所サービスB型の在り方について、蒲郡市におけるサービス提供プロセスの整理をサロン参加者の意見を基に構築。通所サービスB型の立ち上げから運営の方法までのフローチャートを作成。 ※13～18ページをご覧ください。



子育て青少年分野

日時	平成28年5月11日、5月18日、6月22日、7月20日、8月18日、8月19日
参加者	ジュニアリーダー近田全史氏、Mikawa Art Center児玉真伍氏、愛知大学学生ボランティア
内容	多世代交流事業(盆踊り)の実施。8月に三谷漁港にてサロン参加者が中心となる盆踊り大会を実施。サロンの創作時間に作成したカゴバッグや古布を使用した巾着袋、油菓子等の販売を企画。



就労分野

日時	平成28年6月6日、9月24日、10月10日、12月3日、12月24日
参加者	蒲郡市立三谷小学校4年生、蒲郡市立三谷西保育園年長、地域住民
内容	就農による多世代交流。遊休農地を活用し、サロン以外の活動の場として農作業を行う。多世代交流として花看板の作成や、農地で出来た野菜をサロンの時間で漬物を製造している。製造した漬物を三谷温泉の朝食で提供予定。



地域づくり分野

日時	平成28年6月6日、7月11日、11月3日
参加者	藤浜染工株式会社藤田洋一郎氏、株式会社市鶴製網所市川晶康氏 手しごと工房道～琉加藤智子氏、日中支援センター 祿兵衛大衆裕美子氏、事務局
内容	地場産業を活用したサロン活動メニュー作り。地場産業である漁網を染色しアクセサリーを開発。現在、サロンの中でアクセサリーを作成し、販売を目指している。





プログラムの検証

今年度のサロンは、おしゃべりする憩いの場・創作活動する場・クッキングをする場・学びの場を提供出来るようプログラムを考え活動してきました。

創作活動はただ作るのではなく、年に2回作品を販売することや、展示室にて作品を展示し地域の人に見てもらうことを目的としました。創作するにあたり、プロの作家さんも加わり、いろんなアイデアをいただき、作品に磨きがかかりました。クッキングは参加者に講師になって活躍してもらい、人気のあった料理を販売出来るよう許可を取るなど、次に繋げる動きが出来ました。学びの場では、普段体験出来ないことや、身近なことに役立つ内容を取り入れることに重きを置き活動を考えました。その他、市内で同じサロン活動をしている団体との交流をはかり、お互い情報交換を行いました。

課題

毎月出していた月のスケジュールから、年間スケジュールに変更し、事前に予定を立てやすくすることで興味関心につなげていく。

年間スケジュール表にしたところスタッフも準備に余裕ができ、参加者も事前に内容がわかることで予定が立ちやすいと好評だった

検証

課題

午後から予定がある人が多いため、内容を隔週にして、学習企画にする。
例)パソコン教室、ヨガ教室、生け花教室など

色々考案したが、様々な趣味を持った方が集まるので〇〇教室と特定出来ない。代わりに、生活に役立つ学びの会を設け、みんなで楽しむ方法を考案した。

検証

課題

納涼祭のようなイベントを夏、秋と行い、作品展や販売を行うことで地域に活動を知ってもらい興味を持ってもらう。子供・主婦層にも関心を持ってもらえるような企画を考える。

納涼祭で、まちの子どものお化け屋敷と盆踊り大会、作品展や野菜や雑貨の販売の内容で行ったところ、多世代の方にサロンを知ってもらおうきっかけにすることができた。

検証

課題

男性参加者にも参加しやすい企画を考える。また、保健センターとの連携を取り、健康相談にも力を入れていく。

保健センターが主で行う蒲郡市の出前講座「愛知めぐりん体操」の会で保健センターが行う健康相談のチラシや、健康クッキングのお知らせなど配布。

検証

課題

無理なくみんなで作り、販売するシステムを考えることでサロンの継続につなげていく。得意を披露することで、仲間が喜んでくれ、生き甲斐に繋がる。

季節で作品を展示するなど、年間の流れや、参加者に来る目的を持ってもらうことで、継続して続けていけるようにしたい。

検証

参加者告知方法の検証

回覧板への配布 / 口コミ / Facebook掲載 / 活動団体への声かけ / はがき送付 / 電話連絡

- 回覧板・口コミが主です。学びの場の内容に応じて興味のある団体に声かけをしたところ、大勢の参加者で賑わいました。しかし、その会のみ参加の方が多く、次につながるのは2～3人でした。
- イベントがある時にはがきでお知らせしたところ、「はがきをいただきありがとうございます。寄らせてもらったよ」と普段あまり参加出来ない方も寄ってくれました。はがきの反響は大きく、イベントにこられなかった方も、町で会うと、「この間は、はがきを頂いたのに参加出来なくてすみませんね、また寄らせてもらうね」と声をかけてくれ、とても嬉しく思いました。はがきを受取った人の中で、「自分なんか連絡くれて嬉しかった」とおっしゃった方が見え、若い時から手紙でのやり取りが主の年代の方が多く、はがきは電話や突然の訪問と違い不信感はない。馴染みのある情報発信方法のほうが参加しやすい事を感じました。

参加者の声



- ✓ 落語「振込詐欺にご用心」の会がとても面白かった。また聞いてみたい。
- ✓ 伝言ゲーム面白かった。脳トレになる。
- ✓ クッキングで色々教えてほしい。
- ✓ 簡単な作り方があることに驚いた。
- ✓ ここにくるといろいろなことを教えてもらえて勉強になる。
- ✓ 他のサロンの方との交流はみんな元気で頑張っていると刺激になった。
- ✓ こんなに色々やっているのに安くて心配になる。
- ✓ 知らない人ばかりかと思っていたら、知っている人ばかりで安心した。
- ✓ また以前行った活動がしたい。
- ✓ いろんな方参加するのでルールを決めた方がいい。
- ✓ いいにくいこともあるので相談出来るよう意見箱を作った方がいい。
- ✓ 行ける時に行くのが無理なくて行きやすい。
- ✓ イベント販売は楽しみ。
- ✓ 展示は嬉しい。もっと多くの人に見てもらいたい。

気づきと課題

個々で学ぶ内容よりみんなで学ぶ内容がサロンには馴染みやすいことがわかった。みんなでというのは、創作活動やクッキング、おしゃべり、学び、すべてのサロンの活動に繋がり、みんなで作った物をみんなで展示したり、みんなで料理したり、みんなでゲームして笑ったり。来年度は「みんなで」をキーワードにあげ、健康・団結・やりがい・人助け・学び・楽しみを活動の内容に入れて考えていきたいです。



	4月	5月	6月	7月	8月
活動日・参加人数	1日 (21名) 8日 (12名) 15日 (14名) 22日 (18名) 合計日数 4日 合計人数 男性 6名 女性 59名	13日 (16名) 20日 (11名) 27日 (11名) 合計日数 3日 合計人数 男性 0名 女性 38名	3日 (30名) 10日 (15名) 17日 (15名) 24日 (35名) 合計日数 4日 合計人数 男性 4名 女性 91名	1日 (15名) 8日 (12名) 15日 (9名) 22日 (31名) 29日 (7名) 合計日数 5日 合計人数 男性 15名 女性 59名	5日 (9名) 18日 (6名) 19日 (9名) 26日 (11名) 合計日数 4日 合計人数 男性 0名 女性 35名
活動内容	○ 創作活動 ○ 創作活動 ○ 創作活動 ○ 創作活動&ヨガ(4人) ○ クッキング よもぎ餅	○ 創作活動 ○ 創作活動 ○ クッキング 葡萄飯・ぶるぶるみずまんじゅう	○ 庄野アナによる音読で脳トレ ○ 創作活動 音読で脳トレ ○ 創作活動 音読で脳トレ ○ まぎちゃんの箱寿司作り	○ 創作活動 音読で脳トレ ○ 夏野菜のピクルスづくり ○ 創作活動 風船バレー ○ 千兵衛の子供たちとふれあう会 ○ 創作活動	○ 創作活動 ○ ぼちぼちカフェと交流会 ○ 創作活動 ○ ゴミ出しマナー教室
対外の動き	○ 農業教室への声かけピラ配り ○ FBへ活動を投稿	○ サロンFBに投稿 ○ 農業活動FB投稿	○ 地域の音読ボランティアに声かけ・広告配布 ○ ホームページ開設	○ 地域の子供たちに声かけ ○ 参加者による声掛け	○ FBへ活動を投稿
参加者および地域の様子	○ Mさんより、鬼まんじゅうとおはぎの差し入れを頂く。活動終了後楽しくおしゃべりしながらいただきました。 ○ 着物をほどこし、作品を作るひとと共同作業ができた。 ○ 独居で軽い認知の方が訪問。活動後自宅に帰れたか心配していると、駐車場の窓から姿が見え、声を掛けると、午前ここで何をしたらか記憶が曖昧な様子。心配なので家族と包括支援に連絡。	○ 参加者が販売用にかごバックづくりに協力。 ○ おしゃべりクッキングでは御飯準備班と片付け班と上手に分担できた。みずまんじゅうは簡単で大成功だった。	○ 音読会は音読に興味のある方に声をかけたことで、その方が、団体に声をかけてくれたり、仲間にチラシを配ってくれ、大勢の参加でにぎわいをみせた。講師を招き行う活動も楽しかったと声が上がった。	○ 千兵衛の子供たちとの交流会では風船バレー大会を行い、体を動かしての活動にみんな生き生きと参加していました。大人も子供に負けじと夢中になることができ、参加者からも楽しかったと多くの声が上がった。	○ 西部包括支援ぼちぼちカフェさんから講師の依頼を受け、サロンメンバーと一緒にかごバック作りを教えるために、ぼちぼちカフェに行った。他のサロンの見学が初めての方も多く、興味津々。お互いの活動を楽しそうに過ごされる。
活動の検証	○ 市役所→包括支援→本人という流れで、市の方にも現状を把握してもらえた。	○ 得意な事を興味のあるかたに教える。みんなが平等な立場で活動できる。	○ 講師を招き活動を行うことも、参加者にとって刺激になると感じた。	○ 風船バレーのような、そこまで激しくなく、わかりやすい遊びは、普段活動的でない方も進んで体を動かし、見ているだけといっていた方も自然に風船が近づくと手を出してくれた。終わった後も楽しかったと笑いが絶えず、気分も高揚しているようで、千兵衛の子供たちとも自然に話をしてくれるなど楽しく交流できた。	○ 他の施設との交流で、お互いに良いところを吸収し、今後に生かそうと参加者みんなが考えてくれた。
その他の気づき	○ 昔ながらの季節の料理を昔ながらの方法で行うクッキングを恒例で行ったことで、「今年も参加するよ」と楽しみに待っていてくれた。	○ 料理の得意な方が講師を行う形はとも良いが、新しい感覚の料理を皆で検証しながら行うことも、いろいろな発見があり、参加者にとって刺激になるように感じた。	○ 活動によっては、声かけを行う団体を絞っても良いのかもと思った。興味を持っている方々に、より一層関心を高めてもらえ、積極的に取り組んでもらえるように感じられた。	○ いろいろなレクリエーションを検討し、体も使った活動も考えていく。	○ いろいろな活動を見ることが自分たちの過ごしやすさにつながる。

	9月	10月	11月	12月	1月
活動日・参加人数	2日 (16名) 9日 (11名) 16日 (10名) 23日 (18名) 合計日数 4日 合計人数 男性 0名 女性 55名	7日 (10名) 21日 (7名) 28日 (17名) 合計日数 3日 合計人数 男性 0名 女性 34名	4日 (6名) 11日 (9名) 18日 (14名) 合計日数 3日 合計人数 男性 0名 女性 29名	2日 (9名) 9日 (8名) 16日 (10名) 23日 (60名) 合計日数 4日	6日 (11名) 13日 (14名) 合計日数 2日
活動内容	○ 創作活動 ○ 布草履づくり ○ 布草履づくり ○ クッキング 赤飯饅頭作り	○ 創作活動 手編みマフラー ○ 創作活動 手編みマフラー ○ クッキング マロンパイ作り	○ 創作活動 手編みマフラー ○ 出前講座 落語で学ぶ悪徳商法 ○ 創作活動 簡単ヨガ	○ 楽しいnewスポーツーツ ○ 創作活動 クリスマスハンキング バスケット作り ○ おしゃべりクッキング 残り野菜のチキントマト 煮込みとローストビーフ ○ クリスマス会 むつみ会のコーラス・ビンゴ大会	○ お茶会、伝言ゲーム ○ 愛知めぐりん体操 仲間の名前を覚えよう神経衰弱
対外の動き	○ FBへ活動を投稿	○ FBへ活動を投稿	○ FBへ活動を投稿 ○ 参加者に声掛け	○ FBへ活動を投稿 ○ クリスマス会のお知らせ はがき送付 ○ 参加者への声かけ	○ FBへ活動を投稿
参加者および地域の様子	○ アクセサリー・箱リメイクなどのプロの方がサロンに参加してくれ、いろいろなアイデアを参加者に伝授してくれ、ますます活気が出てきた。 ○ 8月に他の施設と交流した中でサロンも参加費をもらったほうが行きやすいと意見が上がり、話し合いを行った。	○ 10月からお茶代・お菓子代として100円徴収。参加者も気兼ねなく飲み物、お菓子が食べれるとのこと。 クッキングの個々にパイ作りを行ったやり方が伝わる側としてとても伝えやすく、参加者側もここに作成でき楽しそうに感じた。	○ 出前講座をするにあたり事前に皆さんの予定を確認しておくべきだった。当日に電話で誘い参加者を集めた。落語は反響も良く、また聞きたいと声が多かった。	○ ダーツは得点計算を素早く行う。みんなの前で投げることで、うまく出来ないや恥ずかしいとか、すぐ計算出来ないや自信をなくしやめてしまう方も見えた。 ○ ハンキングバスケットは好評で春にも行いたいと声が上がった。 ○ おしゃべりクッキングは一人ひとりお洒落に盛りつけた事で饗宴な気分を味わえたと喜ばれた。 ○ クリスマス会は、普段あまり顔を出さない方もはがきをもらい遊びにきましたと声をかけてくれる方が多く見られた。	
活動の検証	○ プロの方が入ったことで作品にデザイン性加わり、参加者の興味関心がより一層深まった。	○ クッキングでは、個々にパイ作りを行った方が伝わる側としてとても伝えやすく、参加者側も個々に作成でき楽しそうに感じた。 ○ 100円のお茶代は参加者に無理はないか今後も検証を続ける。	○ 参加者の予定の把握、サロンの内容の告知不足が考えられ、再度サロンの内容の告知方法を検討していく必要がある。	○ 初めてはがきにて告知を行ったところ、はがきをみて参加してくれる方が多くあり、今後も告知方法として郵便を使用していく。	
その他の気づき	○ 作ったものを展示販売できると、よりやりがいがある。	○ 参加者にとって楽しかったと感じてもらえるクッキングの手法を考えていく。	○ 今回出前講座の落語を依頼し、サロンで観覧型の内容は初めてでした。参加者の反応はとても良く今後も芝居のような見て楽しむ内容も視野に入れていこうと思う。	○ はがきや手紙の告知の方が年配の方には伝わりやすいことがわかった。	



地域の担い手づくりシンポジウム5

共に生きる地域社会の実現に向けて、このまちの新しいカタチ

平成29年1月28日(土) 蒲郡信用金庫本店 がましんコミュニティホール
シンポジウム 13:30~17:30 懇親会 18:15~20:00

少子高齢化の進展に伴う介護ニーズの増大や生産年齢人口の減少の中で、福祉人材の確保が大きな問題となると共に、効果的・効率的なサービスの提供の必要性が大きな社会課題として挙げられています。さらにサービス対象者の多様化、抱える困難の複合化、必要な支援の複雑化が進む中で、対象者の状況に即応して、ニーズ把握から支援の組み立て、提供までを一貫して行う事が求められています。近隣市町に比べ急速に伸びる高齢化と人口減少を抱える蒲郡市において多様なニーズに応える為に、障がい、高齢、児童といった地域事情に合わせたサービスの在るべき姿を見直し、国の方向性、先進地事例を共に学ぶ中で未来を描く必要があると考えます。

- 1 **基調講演 我が事、丸ごと地域共生社会の実現に向けて**
講師 野崎伸一氏 所属:厚生労働省政策統括官付政策企画官
- 2 **コミュニティーサロン事業報告と通所B型の新しいカタチ**
2年半の活動から見たコミュニティーサロンに必要な機能と今後の持続可能な運営について
報告者 鈴木将浩氏 株式会社アイエリア 代表取締役
報告者 中村美奈栄氏 蒲郡市長寿課地域包括ケア推進室 室長補佐
進 告 小田泰久 NPO法人 楽笑 理事長
- 3 **パネルディスカッション**
地域共生社会の実現に向けた実践から考えるこのまちの新しいカタチ
助 言 者 野崎伸一氏 厚生労働省政策統括官付政策企画官
パネリスト 大原裕介氏 社会福祉法人ゆうゆう 理事長
パネリスト 草部豊美氏 おじゃまる広場 代表
進 告 小田泰久 NPO法人 楽笑 理事長

事業概要	
日時	平成29年1月28日(土) シンポジウム 13:30~17:30(受付開始13:00) 懇親会 18:15~20:00(受付開始18:00)
会場	シンポジウム 蒲郡信用金庫本店 講堂 (蒲郡市神明町4-25) 懇 親 会 来de音 (蒲郡市神明待ち8-10)
開催協力	主催 特定非営利活動法人 楽笑 共催 一般社団法人start from Miya 後援 愛知県、蒲郡市、社会福祉法人蒲郡市社会福祉協議会 助成 公益財団法人 日本財団

事業の目的

▼地域に必要な機能を模索

我が事、丸ごと地域共生社会の実現に向けて、複雑なニーズに対応する新たな福祉サービスの在り方とシステムの方向性を学び、地域に必要な機能を模索する。

▼位置づけの明確化

新たな福祉サービスの一つである、日常生活支援総合事業の通所B型とコミュニティーサロンの位置づけを明確にする。

▼意識変革に繋げる

シンポジウムや本事業に関わりを持った市民に参加を促し、地域福祉に興味関心のない方の意識変革に繋げる。



※平成28年に開催した、地域の担い手シンポジウム4の様子。

講師・パネラー紹介



講師・助言者

野崎 伸一 氏 厚生労働省政策統括官付政策企画官

1992年に厚生省(当時)に入省、児童家庭局に配属。2002年にはカリフォルニア大学公衆衛生大学院修士課程を修了し、その後は医政局総務課企画法令係長、障害保健福祉部精神・障害保険課課長補佐、在アメリカ合衆国日本大使館一等書記官、健康局総務課課長補佐を歴任し、現在は厚生労働省政策統括官付政策企画官として社会保障を担当している。



パネリスト

大原 裕介 氏 社会福祉法人ゆうゆう理事長

1979年生まれ、札幌市出身。北海道医療大学卒業後、同大学院看護福祉学研究科臨床福祉専攻修士課程へ進学。2005年NPO法人を設立し、2007年より現職。北海道医療大学客員教授、一般社団法人FACEtoFUKUSHI代表理事、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク代表理事なども務める。



パネリスト

草部 豊美 氏 おじゃまる広場代表

大阪市出身で、1997年より三重県名張市に在住。20歳、17歳、14歳の娘の母。2002年、地域で乳幼児の支援をすることで、親子の孤立を防ぐことを目的とした「おじゃまる広場」のスタート時より参加し、2010年より主任児童委員(民生・児童委員)、おじゃまる広場代表として活動。

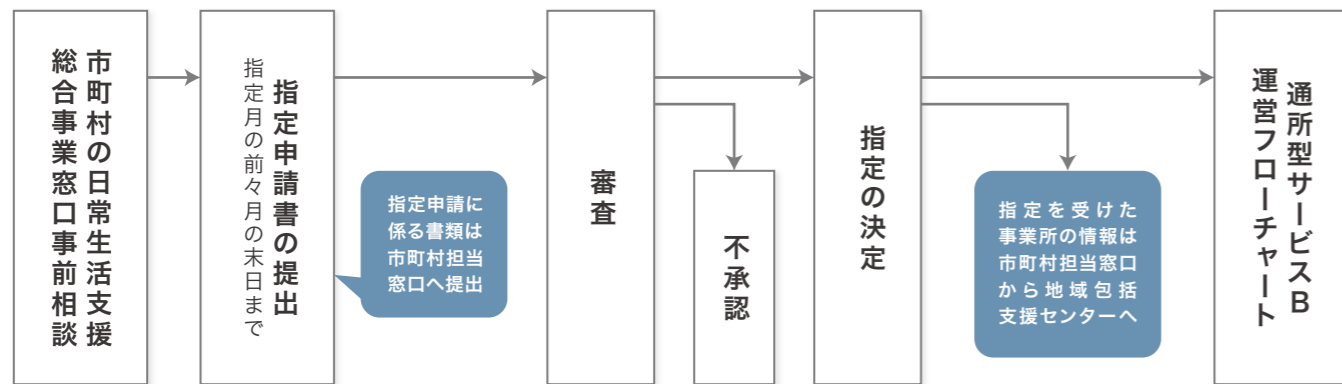


進行役

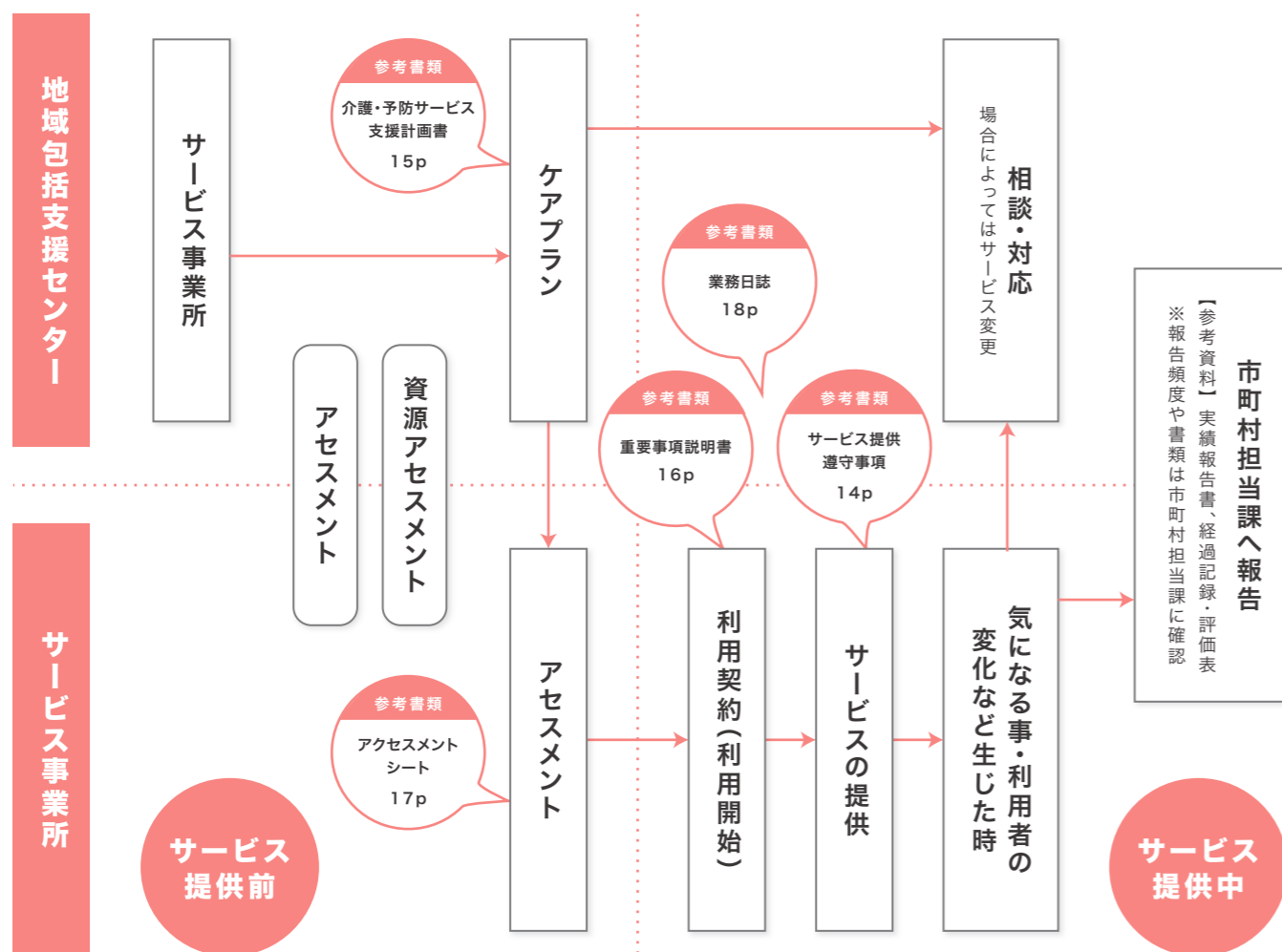
小田 泰久 氏 NPO法人楽笑

蒲郡市三谷町生まれ三谷育ち。2007年NPO法人楽笑を設立し理事長に就任。パン工房八兵衛、酒屋屋十兵衛、日中支援センター緑兵衛、キッズサポートセンター千兵衛と、三谷町内4拠点にて事業を展開。2014年一般社団法人start from Miyaを設立し代表理事に就任。

通所型サービスB 立ち上げフローチャート



通所型サービスB 運営フローチャート



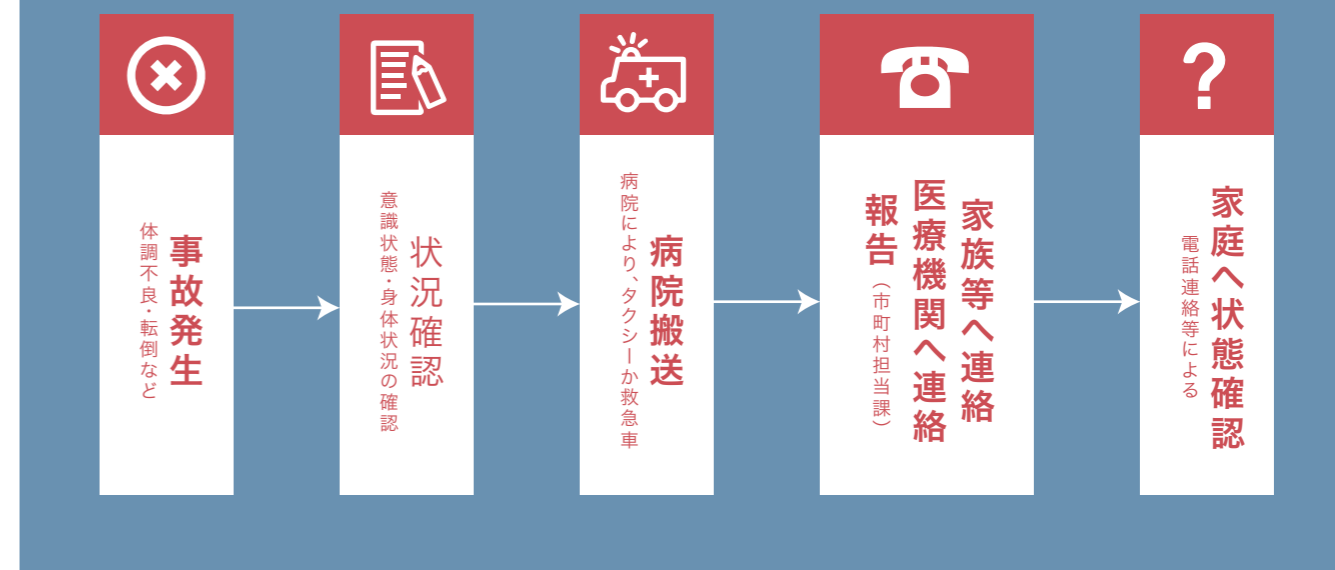
参考書類及び必要書類はさんかく屋根のふれあいサロンHPからダウンロードできます。

さんかく屋根フロン 検索

通所型サービスB サービス提供遵守事項

- 1 従事者の清潔の保持・健康状態の管理**
 - ✓ 従事者は清潔を保持すること。
 - ✓ 代表者は従事者の清潔保持、健康状態の管理 のため必要な対策を講じること。
- 2 従事者又は従事者であった者の秘密保持**
 - ✓ 従事者は正当な理由なく、業務上知り得た利用者等の情報を漏らしてはならない。
 - ✓ 代表者は従事者であった者が、利用者等の情報を漏らすことがないよう、必要な対策を講じなければならない。
- 3 事故発生時の対応**
 - ✓ 市町村、地域包括支援センター、利用者 の家族等への連絡
 - ✓ 事故の状況、行った措置の記録
 - ✓ あらかじめ対応方法を決定 ※図表参照
- 4 廃止及び休止の届出と便宜の提供**
 - ✓ サービスを休止・廃止した場合に、引き続きサービスの提供を希望する者に対して、同様のサービスが提供されるよう、市町村及び地域包括支援センター等と連絡調整等を行う。

緊急時の対応フローチャート



通所型サービスB（住民主体等）重要事項説明書

1 事業者	
名称	さんかく風楳のふれあいサロン
所在地	蒲郡市
電話番号	0533- -
代表者氏名	
管理者氏名	
設立年月日	平成29年4月1日
利用定員	20名
2 事業実施区域 蒲郡市○地域・△地域・□地域	
3 営業時間 営業日 毎週 曜日（ただし、12月29日から1月3日までを除く） サービス提供時間 午前 時から 午後 時	
4. 従業員体制 管理者を配置し、サービスを提供します。	
5 サービス内容 介護予防を目的として、利用者が事業所に通所することにより、心身の健康の保持・回復を図るものです。（入浴の提供は、ありません。）	
6 事業の目的と運営方針 利用者が可能な限り、自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の支援等を行うことにより、心身機能の回復を図り、もって生活機能の維持又は向上をめざします。	
7 利用料について (1) 利用料 ・1800円（食事代や、利用者への希望による作業等の材料代は、実費となります） (2) 利用料お支払い方法 ① 利用料は請求書によりお支払いください。 ② 口座引き振しを利用できる場合があります。希望される方はご相談ください。 8 サービスの利用に関する留意事項 (1) サービスは「介護予防ケアマネジメント」にもとづいて行ないます。 (2) 利用の中止、変更、追加 ① 利用予定日の前日、利用者の都合により、サービスの利用を中止又は変更を希望される場合は、サービス提供の24時間前までに申し出てください。 ② 利用予定日の前日までに申し出がなく、当日になって利用の中止の申し出をされた場合、キャンセル料（食事代 円）をお支払いいただきます。 ③ サービス時間中に利用者の都合によりサービスを中止された場合は、当初計画された時間分の利用料をいただきます。	

④ サービス利用の変更・追加については、ご相談に応じます。

(3) 利用を中止していただく場合について
① 風邪や病気の場合はサービスの提供をお断りすることがあります。
② 当日の健康チェックの結果や利用中に体調が悪くなった場合は、サービス内容の変更又は中止をすることがあります。
(4) 他の利用者や家族、従業員に対する迷惑行為を行わないようお願いします。
(5) 金銭、貴重品は原則、施設内に持ち込まないようお願いいたします。
(6) 利用者や従業員に対して、飲食物等の物品のやり取り、金銭の贈与はご遠慮願います。
(7) 営利行為、宗教活動、政治活動は禁止します。
(8) 施設内の設備・備品等の利用は、従業員の指示に従い、十分に注意をお願いします。
(9) ベット類の持ち込みは禁止します。
(10) 身上に関する重大な変更が生じた場合は申し出てください。
(11) 送迎時の途中下車は禁止します。

9 緊急時の対応について
① サービス利用中に体調が悪くなった等の緊急時は、契約者及び利用者の家族に連絡の上、適切に対応します。また、緊急の場合は、救急車を呼ぶことがあります。

10 情報提供について
事業者は、サービス提供をする上で知り得た利用者及びその家族に関する秘密を正当な理由なく第三者に開示しません。ただし、サービス事業者間で行われるサービス担当者会議等においては、必要な情報のみ提供させていただく場合があります。

11 苦情等の受付について
(1) サービスに対する苦情やご意見、利用料のお支払いや手続きなどサービス利用に関するご相談は以下の窓口で受け付けます。
○ △△△△△ 電話番号 0533- -
○ △△△△△ 毎週 曜日 ～ 曜日 時 分～ 時 分
(2) その他苦情受付機関

通所型サービスの開始にあたり、平成 年 月 日に利用者又は代理人に対して、本書面に基づいて重要事項の説明をします。
(説明者)
住所 ○○○ 氏名 □□□□
住所 △△△△△ 氏名 □□□□
私は、本書面により、平成 年 月 日に説明者から通所型サービス事業について、重要事項の説明を受けたことを認めます。
(利用者) 住所 氏名 印
住所 氏名 印

介護予防サービス・支援計画書

（ケアマネジメントにおいて使用の際は、網掛け部分の記載は省略可能）

No. _____

利用者名 _____ 様（男・女） 歳 認定年月日 年 月 日 ～ 年 月 日

計画作成者氏名 _____ 氏名 _____ 氏名 _____ 氏名 _____
委託の場合：計画作成者事業者・事業所名及び所在地（連絡先）

計画作成日 年 月 日（初回作成日） 年 月 日 担当地域包括支援センター： _____

目標とする生活 _____

1日	1年
----	----

初回・紹介・継続 認定済・申請中	ケアマネジメントA・ケアマネジメントC 事業対象者・要支援1・要支援2
---------------------	--

アセスメント領域と現在の状況	本人・家族の意欲・意向	領域における課題（背景・原因）	総合的課題	課題に対する目標と具体策の提案	具体策についての意向 本人・家族	目標	支援計画			
							目標についての支援のポイント	本人等のセルフケアや家族の支援、インフォーマルサービス	介護保険サービス又は地域支サービス	サービス種別
日常生活（家庭生活）について	□有 □無					()				
健康状態について		□有 □無				()				
運動・移動について		□有 □無				()				
社会参加、対人関係・コミュニケーションについて		□有 □無				()				

健康状態について
□主治医意見書、健診結果、観察結果等を踏まえた留意点 _____

【本来行うべき支援が実施できない場合】
 適切な支援の実施に向けた方針 _____

【留意】
 地域包括支援センター _____
 〔確認印〕 _____

総合的な方針：生活不活発病の改善予防のポイント _____

計画に関する同意
 上記計画について、同意いたします。
 平成 年 月 日 氏名 _____ 印 _____

※グレーの部分は、通所型サービスBのみを利用する際には必要ありません。





通所型サービスアセスメントシート

利用開始日 年 月 日 利用曜日:

記入日 年 月 日
更新日① 年 月 日
更新日② 年 月 日
記入者

1.基本情報

ふりがな	性別	年齢	生年月日
本人氏名		歳	M・T・S 年 月 日
現住所	(電話番号) - -		
世帯類型	1.同居 2.同居(日中独居) 3.高齢者夫婦 4.独居	要介護認定	申請中・要支援()・要介護()
緊急連絡先	住所	本人との続柄	電話番号
①	〒		- -
②	〒		- -
担当CM	事業所名:	CM	- -

2.機能的評価(Barthel Index)

ADLなど	現 状		備 考	
食 事	自立	一部介助 全介助		
移 乗	自立	一部介助 ほぼ全介助 不可能		
整 容	自立	一部介助		
トイレ動作	自立	一部介助 全介助	視 力	普通 やや難
入 浴	自立	一部介助または不可能	聴 力	普通 やや難
歩 行	45M以上自立 45M以上一部介助 歩行不能			
階段昇降	自立	一部介助() 不能		
着 替 え	自立	一部介助() 全介助()		
排 尿	失禁なし ときに失禁あり 上記以外			
排 便	失禁なし ときに失禁あり 上記以外			
認知症	なし・軽度・中程度・重度	障害自立度	交通機関可	近隣可 介助により外出 外出頻度少ない
主治医①	医療機関名	科	Dr.	- -
主治医②	医療機関名	科	Dr.	- -
既往歴・病歴	平常時バイタル			
	血圧 / 体温 °C			
服薬				
留意事項				

3.サービス利用についての希望等

ご本人の希望	ジェノグラム
ご家族の希望	
性格・趣味	
生活歴	
その他利用中のサービス	

事業所名

通所介護業務日誌

年月日	平成 年 月 日 ()	サービス提供時間帯	10:00~13:30	
スタッフ	管理者	〇〇〇〇		
	従事者 (ボランティア)			
利用者数	名	【利用者氏名】		
利用者氏名	(欠席 名)	<input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 (要支援) <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 (事業対象者) <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 (一般) <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇		
	区 分	人 数	利用者名	
	食 事	一般食	名	<input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇 <input type="checkbox"/> 〇〇〇〇
		中 止	名	
送 迎		〇〇コース	〇〇コース	
	着	: 名	: 名	
	発	: 名	: 名	
		: 名	: 名	

【利用者の様子】

利用者名	様子

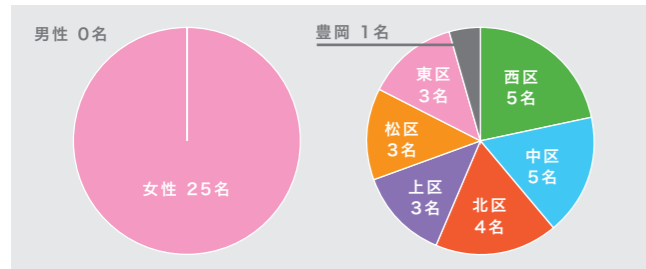
【特記事項】

サービス提供を中止した利用者(氏名: 理由)	
記録者	(職種・氏名)
管理者コメント	確認印

アンケート結果のまとめ

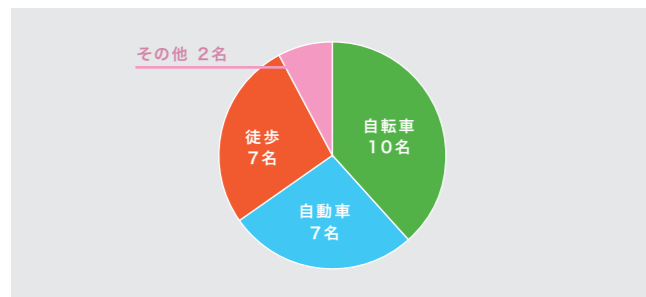
問1 あなたの性別は？ 自治会は？

アンケート調査の日数に男性参加者がいなかった事もあるが、開設当初からの課題であった男性の参画を促す事が出来ない結果としても捉えられる。男性が参加している地域のサロンを参考にしながら、役割づくりを行い、ターゲットを絞っていく必要がある。



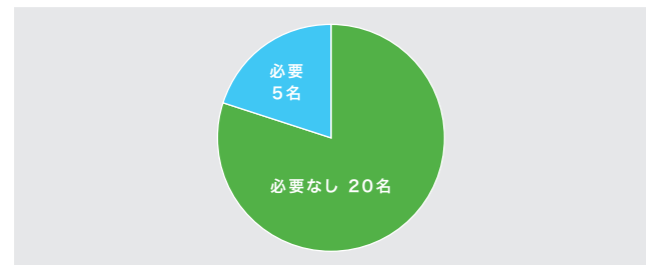
問3 会場までの移動手段は？

年齢が上がるにつれ、徒歩での移動手段になっている。徒歩の方の参加理由も健康を維持するためとの比率が高い。



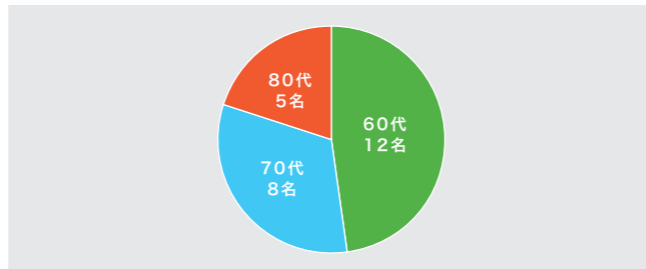
問6 サロンで食事は必要ですか？

参加されている方の多くは、旦那さんの昼食を作りに戻られる方が占めている。よって昼食は必要ないという回答が多いが、中には独居でみんなとの食事を楽しみにしている方もいることから個別の対応を考える必要がある。



問2 年齢は？

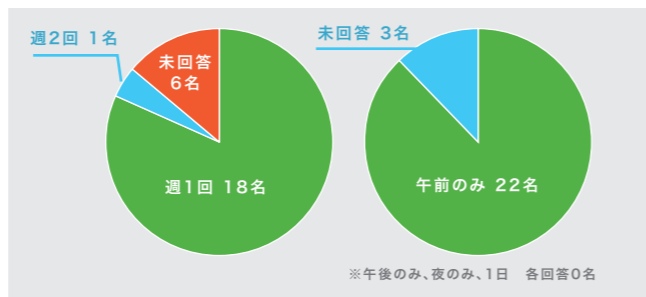
60代の参加率が高く、サロンに参加する理由にも当てはまるが、健康維持や生きがいづくりといった将来に向けての意識を持っている世代の参加に繋がっている。また、新しいサロンということもあり、既存の公民館活動や老人クラブといったところに参加していない方から選ばれているのも特徴として挙げられる。



問4 回数はどの位が良いですか？

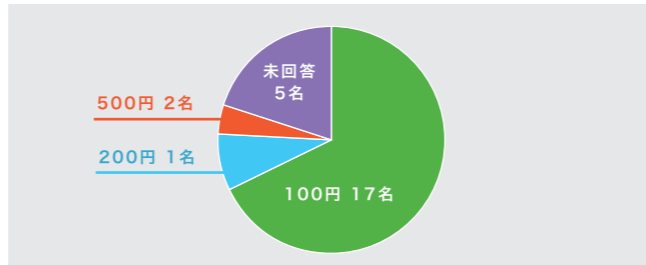
問5 時間はどの位が良いですか？

週1回の午前中という流れが定着している。金曜日の午後は公民館で過ごす、帰りにスーパーで買い物をしていく、ランチに寄って帰るなど、比較的時間がある午前中に希望が多い。



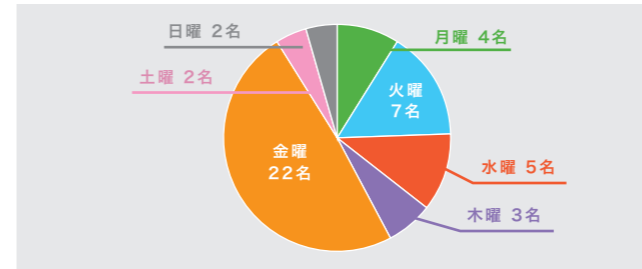
問7 会費はどの位が良いですか？ ※材料費別

1回100円の希望が最も多く、お茶やお菓子の代価として払うことで、参加者も気兼ねなく飲食することが出来るとの回答も頂いている。



問8 開催は何曜日が良いですか？

回答者全員が、現在開催している金曜日を希望している。その他、金曜日を基本に考えた時に、期間が空く火曜日も多く、また土日より平日を希望する方が多い。

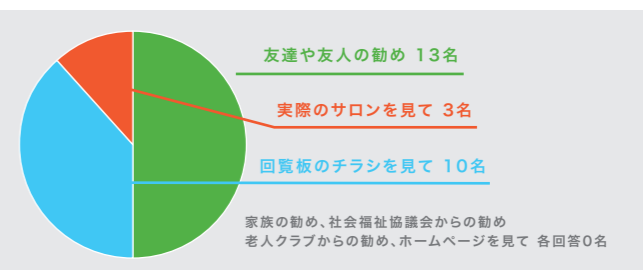
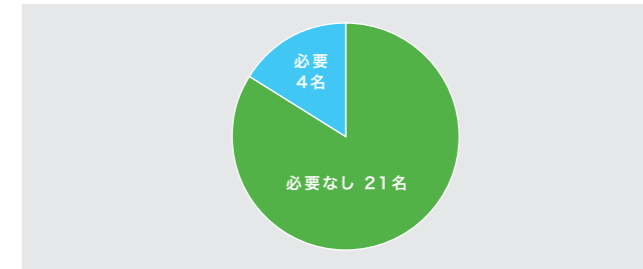


問10 参加したきっかけは？ 複数回答可

友達や友人の勧めといった口コミと回覧板の全戸配布によるチラシによる告知が大きい。最近では友達に誘われて来たという方が大半を占めている。

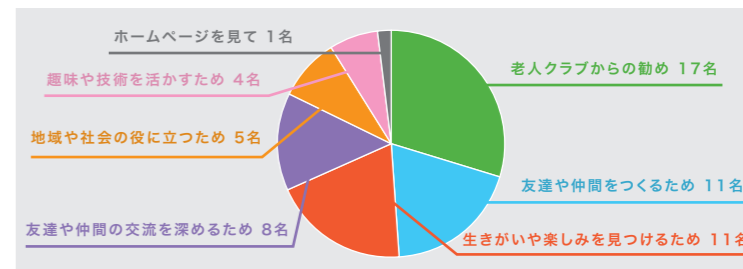
問9 サロンまで送迎が必要ですか？

必要ない方が圧倒的に多いが、年齢が高い方や総大区が遠方の方は送迎のニーズを持っている。



問11 参加する理由は？ 複数回答可

外出して、身体を動かしたり、新しい友達や仲間作りをする事で生活にメリハリをつけ健康の維持を保つために参加している方が多く見られる。今後将来に向け、歳を重ねていく中でもある程度自分自身で生活をしていけるような介護予防の意識の高さが伺える。

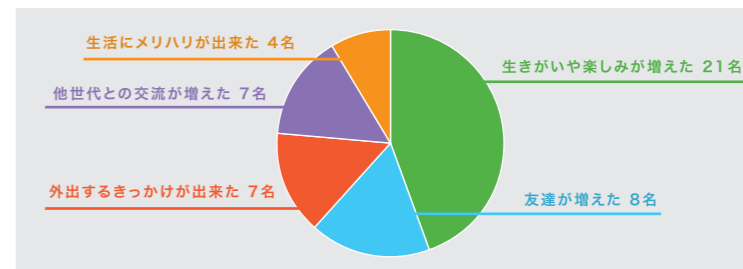


問12 サロンに参加して良かったこと 複数回答可

生きがいや楽しみに繋がることが満足度として高いことから、今後もこのコンセプトを変えずに、活動内容を一緒に考えていく事が重要である。

自由回答項目

- ✓知らない事が他の人から聞けて出来た事。
- ✓友達が多くできた。友達が増え楽しくなった。
- ✓いろいろの物を作って楽しみが出来た。
- ✓情報の交換ができ老後が楽しみです。
- ✓地域の方との交流ができた。
- ✓相談相手ができたのが嬉しい。
- ✓若い職員と話をするだけで元気をもらえます。
- ✓金曜日の午前中はサロンに行く予定ができたことがよかった。
- ✓外にできるきっかけを頂いてます。
- ✓この歳で新しい友達ができました。
- ✓裁縫や料理といった自分の趣味の幅を広げることができてます。
- ✓創作やクッキングで教え合いっこができる。





アンケート結果のまとめ

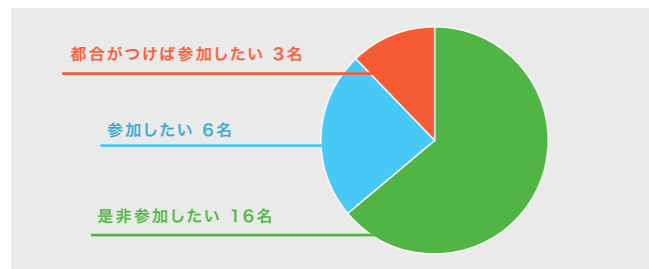
問13 今後サロンに求めること

- ✓職員の方が良い人ばかりです。
- ✓夜お酒を飲んで交流ができるようになると楽しいです。
- ✓男性の方も気軽に来所できる場ができたと思います。
- ✓これからもよろしくをお願いします。

- ✓旅行とか行きたいです。
- ✓利用者それぞれ特技などを他の皆に教えたりして、
- ✓もっと入りやすいといいかも。
- ✓それぞれが学習できる場としたい。

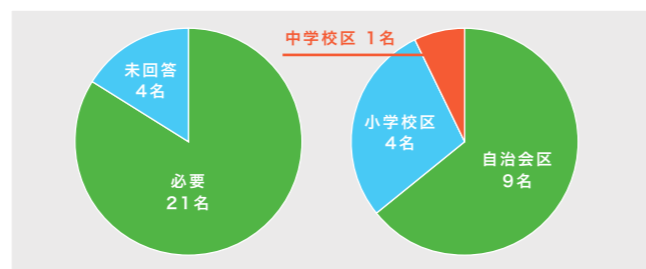
問14 今後もサロンに参加したいですか？

回答者全員が、参加したいという希望を持っており、2年半の活動を経て定着していることが伺え、今後も継続することが望まれている。



問15 このようなサロンは地域に必要ですか？

回答者全員が、必要と回答している。その中で、地域としては自治区・小学校区の順で必要としており、より小さなエリアでの開催が求められる傾向にある。



問16 さんかく屋根のふれあいサロンに応援メッセージをお願いします！

- ✓これからも今までと同じ様に料理、ゲーム、落語。
- ✓とても楽しく笑いの中で過ごすことができ、よかったです。
- ✓ますます多くの人が参加するように希望します。
- ✓職員の皆さんには楽しませてもらっています。

- ✓自由に参加し気兼ねなく交流ができる今のムードを続けてほしい。
- ✓若いスタッフの方々の応援が刺激になります。お世話になります。
- ✓いつも楽しく過ごさせていただいております。
- ✓これからもよろしくをお願いします。

さんかく屋根のふれあいサロン サービス利用アンケート
まとめと検証
アンケート実施日（平成28年12月3日～平成29年1月13日）有効回答25件

アンケート調査票（設問ごとに○を記載して下さい。）

問1 あなたの性別は？（男・女）
自治会は？（西区、北区、中区、上区、東区、松区、その他「 」）

問2 年齢は？（30才未満、30代、40代、50代、60代、70代、80代、90才以上）

問3 余暇までの移動手段は？（車・自転車・徒歩・その他「 」）

問4 サロンの回数、どの位が良いですか？（週2回・週1回・月1回・年3回）

問5 サロンの時間は、どの位が良いですか？（午後のみ・午後のみ・夜のみ・1日 時間程度）

問6 サロンで食事は必要ですか？（必要・必要なし・その他「 」）

問7 サロンの会費（材料費は別）は、どの位が良いですか？（1回 円）

問8 サロンの開催は、何曜日が良いですか？（月・火・水・木・金・土・日）

問9 サロンまで送迎が必要ですか？（必要・必要なし）

問10 サロンに参加したきっかけをお聞かせください。（複数回答可）
ア 友達や友人の勧め イ 家族の勧め ウ 社会福祉協議会からの勧め
エ 老人クラブからの勧め オ 実際のサロンを見て カ 回覧板のチラシを見て
キ ホームページを見て ク その他「 」

問11 サロンに参加する理由をお聞かせください。（複数回答可）
ア 友達や仲間をつくるため イ 友達や仲間の交流を深めるため
ウ 生きがいや楽しみを見つけるため エ 健康を維持するため
オ 地域や社会の役に立つため カ 趣味や技術を活かすため キ 弊に目的はない
ク その他「 」

問12-1 サロンに参加して良かったこと（複数回答可）
ア 友達が増えた イ 生活にメリハリができた ウ 外出するきっかけができた
エ 生きがいや楽しみが増えた オ 他世代との交流が増えた

問12-2 サロンに参加して良かったこと（自由記述）

問13 今後サロンに求めること（自由記述）

問14 今後もさんかく屋根のふれあいサロンに参加したいですか？
ア 是非参加したい イ 参加したい ウ 都合がつけば参加したい
エ あまり参加したくない オ 参加したくない

問15 このようなサロンは地域に必要ですか？
ア 必要（中学校区・小学校区・自治会区・その他「 」）
イ 必要ない

問16 さんかく屋根のふれあいサロンに応援メッセージをお願いします！

ご協力ありがとうございました。

事業実施団体所見 特定非営利活動法人楽笑 理事長 小田泰久

共生型交流拠点として平成26年10月より約2年半、ゼロから今日に至るまで地域の皆様と共に創り上げ、共に活動をして参りました。様々な手法を駆使しながらも、今では毎週金曜日に行われているふれあいサロンが地域に少しずつですが認められ始めました。地縁団体ではなく民間団体が行う地域向けの事業は、大きなイノベーションを起こさない限り、なかなか自分ごとと感じていただく事ができず、住民参加や参画といった運動展開まで繋がる事が出来ません。今事業に対し、地域住民への信頼と安心を側面で支援していただいた三谷町総代会の皆様、三谷老人クラブ高砂会の皆様、地域包括支援センターの皆様には心より感謝致します。

今回の事業の成果は大きく2つ挙げられます。一つは共生型交流拠点が確立され、地域に根付いてきた事。もう一つは、住民が参画する事で、地域が抱える課題を解決に導くという一連の流れを体現できたことです。地域の求めていることの幅広いニーズに「できる範囲で」参画するというコンセプトで住民の方々と無理なく進めてきた結果であると考えます。

こういった地域の課題解決の為に地域運営組織は、福祉分野のみならず災害支援や生活支援等で今後益々注目を浴びてくると思います。その地域運営組織を継続的に活動していく上で、「当事者意識の醸成」という問題が必ずと言っていいほど指摘されます。それこそ、「できる範囲で」地域住民と時間をかけ、関係を構築し信頼を創り上げ、共感を生むという経験を繰り返す事が「自分ごと」という意識の醸成に繋がる近道であると今回の事業で確信致しました。

今後は、この共生型交流拠点から地域の「小さな困りごと」を発掘し、地域合意を図りながら地域に必要なとされる拠点機能を備えて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願致します。

